

文部科学省 共同利用・共同研究拠点

立命館大学アート・リサーチセンター 日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点
2014年度 共同研究成果報告書

2015年 4月29日 提出

1. 研究課題名	
富本憲吉とバーナード・リーチ往復書簡の研究—京都市立芸術大学所蔵資料を中心に (英文標記: Research on the letters exchanged between Tomimoto and Leach: Tomimoto Kenkichi Archive in the collection of Kyoto City University of Arts)	
2. 研究代表者	
氏名(ふりがな)もりの あきと	所属機関・職名
森野 彰人	京都市立芸術大学 美術学部 准教授
3. 研究分担者 (合計: 名) ※アート・リサーチセンター所属者は、「ARC 所属教員欄」に○印を付けてください	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
鈴木禎宏(すずきさだひろ)	お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科 准教授
Meghen Jones (メーガン・ジョーンズ)	Associate Professor Alfred University
永楽善五郎(えいらくぜんごろう)	京都市立芸術大学 美術学部 美術研究科 特任教授
松尾芳樹(まつおよしき)	京都市立芸術大学芸術資料館 学芸員
彬子女王(あきこじょおう)	立命館大学アート・リサーチセンター客員研究員・京都市立芸術大学芸術資源研究センター客員教授
前崎信也(まえざきしんや)	立命館大学 衣笠総合研究機構 専門研究員
入澤聖明(いりさわまさあき)	京都市立芸術大学大学院 美術研究科 博士(後期) 芸術学領域

4. 研究課題の概要(300字程度) (申請書から変更がある場合は、変更点が分かるように明記してください)
富本憲吉(1886-1963)は「色絵磁器」で第1回の重要無形文化財保持者に認定され、文化勲章を受章した陶芸家である。京都市立芸術大学の前身である京都市立美術芸術大学において教授・学長も務め、20世紀を代表する多数の芸術家を育成したことで知られている。2013年、京都市立芸術大学は富本憲吉記念館(奈良県安堵町)から富本憲吉関連資料の寄贈(940件)をうけた。本研究では、同資料中の富本と英国人陶芸家バーナード・リーチ(1887-1979)の間で交わされた多くの書簡をデジタル化し、画像データベースを構築、それをもとに研究を行う。20世紀の日本と英国を代表する陶芸家のやりとりを翻刻・研究し、画像及び研究成果を公開することにより、日英の美術工芸史に新たな研究成果・手法を提示する。
5. 研究成果の概要 (この項は、本センターのホームページ・紀要等で公開することがあります)

「近現代陶磁器資料データベース」構築

2015年2月に「近現代陶磁器資料データベース」を構築し、研究メンバーがウェブ上で資料データを共有できる体制を整えることができた。そのために、既存の画像データベースの改編、未撮影資料のデジタル化、富本憲吉—バーナード・リーチ往復書簡の翻刻を行い、すべてのデータのデータベースへの登録を行った。現在は試験運用中である。

『富本憲吉著 我が陶器造り』出版準備

2014年度の研究成果として森野彰人・前崎信也編『富本憲吉著 我が陶器造り』(里文出版)を2015年7月に出版予定である。立命館大学アート・リサーチセンターでデジタル化、および全文の翻刻を行い、注釈を付した。それに加えて、2013年12月に京都市立芸術大学芸術資源研究センターが主催し、京都国立近代美術館で開催したシンポジウム『富本憲吉のことば』の対談の内容を含めた。

富本憲吉研究会の開催(2015年2月)

京都市立芸術大学芸術資源研究センターにおいて、本研究メンバーによる研究の進捗状況の報告会を開催。研究会の一環として研究対象としている京都市立芸術大学所蔵の富本憲吉関連資料の見学会を開催。

6. 研究業績

(1) 著書

- ・彬子女王『赤と青のガウン』PHP出版、2015年
- ・鈴木禎宏、別宮美穂子(監修)『柳宗悦とバーナード・リーチ往復書簡 日本民藝館資料集』日本民藝館、2014年
- ・前崎信也(編著)『大正時代の工芸教育—京都市立陶磁器試験場付属伝習所の記録』宮帯出版社、2014年
- ・前崎信也(編著)『没後100年 大塩が生んだ京焼の名工 三代清風与平』キャッチボール、2014年

(2) 論文(単著)

- ・鈴木禎宏「人と作品 バーナード・リーチ 暮らしを創る喜び」、『藝術文化雑誌 紫明』35号(特集「民藝」)、2014年8月、pp 38-46
- ・Shinya Maezaki, “Fukami Sueharu Now: From 2:30 p.m. to 7:00 p.m., July 10, 2014”, Erik Thomsen Gallery ed., *Fukami Sueharu*, Erik Thomsen Gallery, September 2014, pp 5-9、査読なし
- ・前崎信也「五条坂に残る栗田口の登り窯—安田家と京都陶磁器合資会社」京都市編『元藤平陶芸登り窯の歴史的価値等調査研究』京都市、2015年3月、pp 17-28、査読なし

(3) 研究発表等

- ・彬子女王、基調講演「工芸と伝統—思いを『つなぐ』意味—」国際シンポジウムシリーズ「つたえる力2」工芸研究とデジタルヒューマニティーズ、(会場:立命館大学末川記念会館講義室)、2015年2月、査読なし
- ・Meghen Jones, “The Nude, the Vessel, and the Empire”, the Sainsbury Institute for Japanese Arts and Cultures, May 2014、査読なし
- ・Shinya Maezaki, “On the Role of the Kyoto City Ceramic Research Center (1896-1920) in Education for Taishō Era Ceramic Arts”, International Workshop “Ceramics, Art, an Cultural Production in Modern Japan”, the Sainsbury Institute for Japanese Arts and Cultures, May 2014、査読なし
- ・前崎信也「美術展覧会という外交—1935年にロンドン王立芸術院で開催された大中国美術展と日本—」民族芸術学会、第134回研究例会(会場:兵庫県立美術館)、2014年6月、査読あり
- ・Shinya Maezaki, “Tradition in Motion: Creating “Jakuchu” with Bamboo and Lacquer”、第56回意匠学会大会(会場:お茶の水女子大学)、2014年7月、査読あり
- ・前崎信也「五条坂に残る登り窯の今—産業廃棄物と文化遺産のはざま—」文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「京都における工芸文化の総合的研究」(立命館大学)、立命館大学アート・リサーチセンター(会場:キャンパスプラザ京都)、2014年3月、査読なし

(4) 主催したシンポジウム・研究会等

国際ワークショップ

- ・Meghen Jones, International Ceramic Art Workshop: *Ceramics, Art, and Cultural Production in Modern Japan*, the Sainsbury Institute for Japanese Arts and Cultures, May 2014, 30名

研究会

- ・「共同利用共同研究拠点富本憲吉プロジェクト研究会」京都市立芸術大学芸術資源研究センター、2015年2月、8名

展覧会

- ・前崎信也監修、「没後 100 年 大塩が生んだ京焼の名工 三代清風与平」 姫路市書写の里・美術工芸館、開館 20 周年記念特別展示、2014 年 9 月—10 月
- ・前崎信也監修、「清風與平家：初代から四代」 財団法人京都陶磁器教会、2014 年 9 月—10 月

(5) その他研究活動(報道発表や講演会等)

報道発表

- ・前崎信也「京焼の名工郷里にお宝 研究者に教わり、住民「発掘」」『朝日新聞』(夕刊)2014 年 9 月 11 日

講演会

- ・彬子女王「美術のウラ側にあるもの」京都市立芸術大学芸術資源研究センター主催特別講演会(会場：京都市立芸術大学 大会館交流室)2014 年 12 月 12 日
- ・前崎信也「やきものに描かれた想い：文様と日本陶磁器」第 17 回清風研究会講演会、2014 年 4 月
- ・Shinya Maezaki, “Chinese Art for Japanese Literati Culture in the Late Edo and Meiji Period”, Oxford Centre for Asian Archaeology, Art and Culture, Institute of Archaeology, Seminar Room, May 2014
- ・前崎信也「近代京焼の登り窯」元藤平陶芸登り窯および跡地の保存・活用に関する検討会議(会場：立命館大学朱雀キャンパス)、2014 年 5 月
- ・前崎信也「アート&アーカイブ：日本文化デジタル化の現在」学習院大学国際研究教育機構主催デジタルアーカイブ講演会(会場：学習院大学国際会議場)、2014 年 6 月
- ・前崎信也「姫路が生んだ世界の清風」姫路市書写の里・美術工芸館主催講演会(会場：姫路市書写の里・美術工芸館会議室)、2014 年 9 月
- ・前崎信也「近代の海外と京都のやきもの」わん・碗・ONE 展エンディングセレモニー第二部(会場：京都きよみず花京か)、2014 年 11 月 11 日
- ・松尾芳樹「吉田校舎物語—美術工芸学校と絵画専門学校」京都府立堂本印象美術館主催講演会(会場：京都府立堂本印象美術館)、2015 年 2 月 14 日

(6) 受賞学術賞

- ・なし

(7) 科学研究費助成事業

- ・鈴木禎宏、「アーツ・アンド・クラフツと民藝—ウィリアム・モリスと柳宗悦を中心とした比較研究」、基盤研究(A)、2011 年 4 月—2015 年 3 月、役割(分担)
- ・鈴木禎宏、「「手応え」に関する越域的学際研究の試み：対抗産業革命から対抗 ITC 革命に向けて」、挑戦的萌芽研究、2014 年 4 月—2017 年 3 月、役割(代表)
- ・前崎信也、「大正時代における九谷焼の研究」、若手研究(B)、2014 年 4 月—2016 年 3 月、役割(代表)
- ・森野彰人、「茶」のトランスフォーム〜「関係性の美学」デザイン理論の探求」、基盤研究(C)、2015 年 4 月—2018 年 3 月、役割(代表)

(8) 競争的資金等(科研費を除く)

- ・前崎信也「美術展覧会という外交：1935 年にロンドンの王立芸術院で開催された大中国美術展と日本」、公益財団法人鹿島美術財団「美術に関する調査研究の助成」、2014 年 7 月—2015 年 5 月、役割(代表)

(9) その他

シンポジウム・パネリスト

- ・森野彰人、わん・碗・ONE 展エンディングセレモニー第二部シンポジウム(会場：京都きよみず花京か)、2014 年 11 月 11 日

その他執筆

- ・前崎信也「融合する工芸—出合いがみちびく伝統のミライ」 田辺小竹他編『融合する工芸—出合いがみちびく伝統のミライ』2014 年 10 月、pp 3-4